

未来へつなげよう
ふるさと中筋の宝を



TOYOOKA
コウノトリ悠然と舞うふるさと



東北大学大学院環境科学研究科
豊岡市
豊岡市立中筋小学校



ふるさと中筋

「未来へつなげよう ふるさと中筋の宝を」



「中筋の宝」は、と問うと子どもたちは、「野菜・コウノトリ・自然・人と人の温かなつながり」と答えます。この中筋を学びのフィールドとして、体験し、探究し、互いに協働して学び合っています。

ふるさとを愛する子どもは、自分自身も愛することができます。「なりたい自分」をめざして、がんばりぬく「中筋っ子」たちは、どのような未来を思い描くのでしょうか。将来の担い手となる子どもたちが、今以上に「心豊かに たくましく」成長していてくれることを願っています。

豊岡市立中筋小学校校長 田村弘子



中筋にはコウノトリが舞い降ります。自然との距離が近いのです。都会では、多くの生きものが住めなくなり、自然と親しむ機会が減っています。心の豊かさが消えようとしています。世界的にも同じことが起こっています。この中筋には、世界から消えようとしている人の暮らしにとって大切なものが残っているのです。今一度、身近な中筋の暮らしを見つめ直し、心豊かな未来の暮らしを思い描いて、他にはない中筋らしさに自信を持ちながら、ワクワク・ドキドキする暮らしをしっかりと築いていこうとする、そんな中筋の人々を誇りに思います。

東北大学大学院環境科学研究科准教授 古川柳蔵

もくじ

1年生	「ビニルハウス見学」「朝市見学」	3
2年生	「町たんけん」	4
3年生	「コウノトリの郷公園見学」「生きもの調査」	5
4年生	「新川学習」「赤木正雄展示館見学」	7
5年生	「米づくり」「加陽湿地の生きもの調査」	9
6年生	「描こう中筋の未来」「中筋の暮らし」	11
	地球環境の今～どこまで悪化しているの?～	13
	昔の暮らしに学ぶ「90歳ヒアリング」	14
	コミュニティなかすじの取組み	19

題字：「ふるさと中筋」豊岡市立中筋小学校 教頭 植村 学
 絵：「羽搏く時」「孵化を待つ」造形作家 竹村 一博

1年生

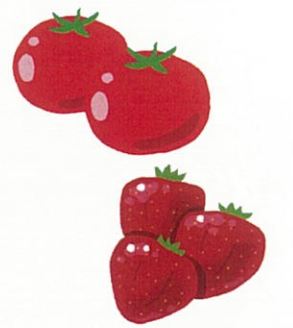
「ビニルハウス見学」「朝市見学」



なかすじしょうがっこう まわ
 中筋小学校の周りには、「ビニルハウス」がいっぱい！
 いちご・トマト、そのほかにもいっばいつくっているよ。
 はな まわ と なに
 花の周りを飛んでいるのは、ハチ。何をしているのかな？



ビニルハウスでできた野菜は「朝市」で売ります。おいしそうだね。



- つく ひと かお が わかる しゃしん
 作った人の顔がわかる写真
- む の う や く げん の う や く
 無農薬（減農薬）
- なかすじ つく や さ い なかすじ た
 中筋で作った野菜を中筋で食べる
 (地産地消)
- と ち ゃ ん ち し ょ う
 採れたものをすぐに並べる（新鮮）

たくさん工夫をしているね。



「町たんけん」

中筋には9つの地区があります。それぞれの地区の「じまん」は何かな？
 じまんの花や木、じまんの生きもの、じまんの建物、じまんの人…。
 たくさん見つけるよ。
 さあ、「町たんけん」へ出発だ！

「ふるさとじまんマップ」

赤木正雄さんの銅像
 全国の砂防工事を指導しました。
 SABO (さぼう) は世界共通語です。

新川用水路
 たくさんの田に水がひかれ農業がさかんになりました。

大師山古ふんぐん
 古ふん時代に朝せん半島から来た人たちがここにはかをつくりました。

ジジババオコシ
 まつりの朝に神社におそなえするおこしをむすためにタイコをたたいて「じじばはおきれ、ひがしがしらむぞ、はよおきておこむせよ」といって地いきをまわります。

八社宮
 伏
 清冷寺
 下加陽
 沖加陽
 引野
 中郷
 土淵
 市谷

「コウノトリの郷公園見学」

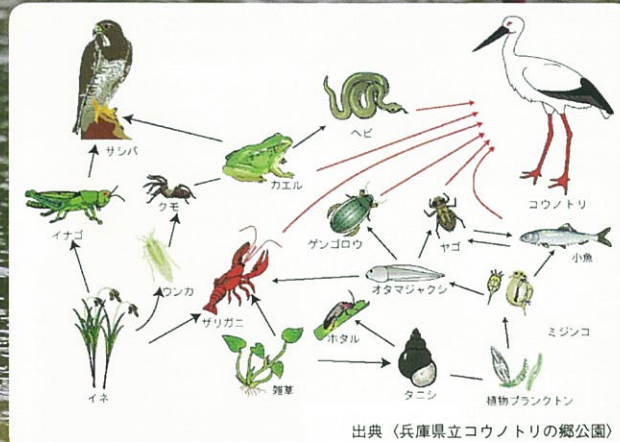
まずは、コウノトリのことを知ろう！

コウノトリ

【分類】
 目：コウノトリ目 *Ciconiiformes*
 科：コウノトリ科 *Ciconiidae*
 属：コウノトリ属 *Ciconia*
 種：コウノトリ *C. boyciana*
 【学名】*Ciconia boyciana* (キコニア・ボイキアナ)
 【和名】コウノトリ
 【英名】Oriental Stork

ちなみに・・・
 ツル ツル目-ツル科
 サギ ペリカン目-サギ科
 2012年、サギはコウノトリ目-サギ科からペリカン目-サギ科に変更になりました。

からだの特徴



出典 (コウノトリ野生復帰のあしあと)

「生きもの調査」

何を食べる？

カエル、小魚、昆虫などの小動物を主食とし、雑穀類は食べません。飼育下では1日約400~500gのエサをたிராげる大食漢の鳥。コウノトリが生きていくためには、生きものがたくさんいる自然が必要なのです。



学校のまわりの、田んぼや川の生きもの調査をしてみましょう。コウノトリの食べものは、いるかな。



かつては水田を見渡す山裾の松の木、今は人工巣塔が主な営巣場所です。

里山

水鳥であるコウノトリにとって、川の浅瀬は大切な場所。季節によってはメインのエサ場です。



川

水深が浅く、生きものがいっぱいいる「田んぼ」は大好きな場所。稲刈りの後もバッタやイナゴを食べに来ます。



田んぼ

私たちの暮らしのすぐそばで生きるコウノトリ。人との関わりが非常に強い鳥です。



出典 〈コウノトリ野生復帰のあしあと〉

「新川学習」「赤木正雄展示館見学」

豊岡盆地をゆったりと流れる円山川。悠然と飛ぶコウノトリ。多くのビニルハウスが立ち並ぶ中筋地区。

このような中筋になるためには、2人のリーダーによる新川用水の事業推進がありました。蓼川井堰ただがわいせきの工事も行われ、多くの人々の苦勞と願いが実りました。さあ、「新川学習」を始めましょう。



円山川の流れと昔の生活

中筋地区は平坦な堤防のない地域であった。そこを流れる昔の円山川は曲がりくねっており、台風などにより川があふれ、石や砂で作物が作れない貧しい地区であった。また、川が無く稲作ができない地域であり、水が無くてもできる桑畑が多く養蚕ようさんが盛んであった。



貧しい地区に水を流して水田を開発村を豊かにしたい

新川用水のなりたち

2人のリーダーによる事業の推進

中筋地区は畑地のわりに水田が少なく村民の生活は非常に苦しかった。この村民の生活を救うため、引野村戸長の赤木さん、伏村戸長の白髭さんらが、円山川から水を引き畑地を開墾することを当時の久美浜県知事へ懇願した。(明治3年) 中筋地区からの強い要望をうけ県はこれを取り上げ県の補助により事業に着工した。全て人力であり困難な工事となった。

蓼川井堰の工事

水を取り入れるためには水を堰きとめることが必要であり、いろいろと調べた結果、上郷地区には昔の神鍋山溶岩が川底から出ていたため、その岩の間に太い生松丸太を渡し、その上に土俵を積み重ねるといった工法になった。

出典 〈兵庫県土地改良史〉〈高齢者教室資料〉

【新しい蓼川堰】 H25,5,22

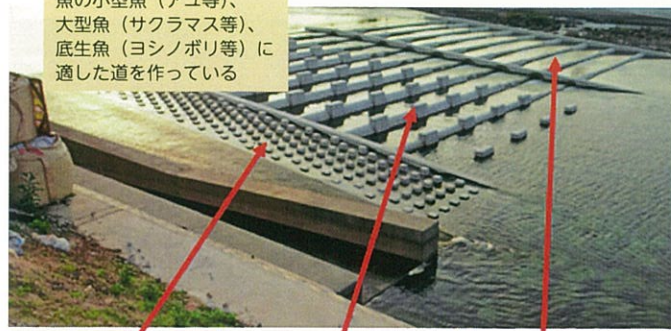


円山川から魚道を通して、新川や田んぼにも魚がやってきます。



蓼川堰魚道

魚の小型魚（アユ等）、大型魚（サクラマス等）、底生魚（ヨシノボリ等）に適した道を作っている



突起型斜路式魚道
底生魚（ヨシノボリ等）の
遡上に適した流れ

切欠・アイスハーバー
併用階段式魚道
流量が多いときに魚の待機
場所として適した形

傾斜隔壁
中央階段式魚道
水量が少ないときの水深確
保に適した形

新川用水樋門



中筋地区は昔から、何度も洪水に見舞われました。どうか安全に安心してく
らしたい。そんな人々の願いを知ることのできる「赤木正雄展示館」が引野地区
にあります。



5年生

「米づくり」

5年生は、環境に優しい米づくりに挑戦します。田植え・稲刈り・脱穀などのた
くさんの世話をして、やっとみんなの口に入ります。給食で「コウノトリ米」も
頂いています。

豊岡では、減農薬や無農薬の「コウノトリ育む農法」や「アイガモ農法」で作っ
た米や「コウノトリの舞ブランド」の野菜や旬の野菜を使った商品作りなど、環
境創造型農業に取り組んでいる人が多くいます。

田植え



稲刈り



「中筋の美しい、楽しいを発見！」

脱穀



「ごはん、おいしかったよ」



「加陽湿地の生きもの調査」

加陽湿地は、円山川と出石川が合流する場所で全国で初めて国の河川事業である湿地再生が行われています。5年生では、定置網をしかけ、湿地の9地点の生きもの調査をして、今までの調査結果と比べます。生きもの種類や数を調べます。外来種も調べます。



加陽湿地



定置網をしかける



かかった生きもの種類と数を調べる



表にまとめる (経年比較)

加陽の湿地でとれた魚の数

	流水域			開放型湿地			閉鎖型湿地		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
ウグイ	8	3	3	2		1			
オイカワ	70	33	3	41	20		12	2	164
カワムツ				1	25				
スゴモロコ		84		1				135	3
スズキ		8		1	5	1		13	
タモロコ	4	20	3	19	2	13	10	131	33
ニゴイ	6	189	6	8	11	88	7	3	5
メダカ		1	8	8			7	14	53
コイ			1			1	2		
ウグイ		10							
シマイサキ		2	4						
モツゴ	1	13	12	8	3	3	17	64	107
カネヒラ		4					1		1
タイリクバラタナゴ	3	3	8	2	5		2	181	216
フナ	3	11	1	7	32	20	1	22	67
ブルーギル		1			1				
ウキゴリ			8	2		9			56
カマツカ		11		2	4			13	
ギギ			2	1					
ゴクラクハゼ	2	4	18	5	1				
チチブ	1								
ナマズ	2				1			1	
ピリンゴ				1	5			4	
ドンコ		2							3
ヨシノボリ		1	4			2		2	
ドジョウ								1	2
マハゼ	1	1		5	13				
合計	101	398	79	114	128	138	57	588	710

「描こう 中筋の未来」

1年生から5年生まで「ふるさと中筋」の学習を積み重ねてきました。

- 学校の周りをたんけんし、生きものと触れ合い、おいしい野菜を育てた1・2年生
- コウノトリの郷公園を見学し、生きもの調査をした3年生
- 新川学習をし、赤木正雄展示館を見学した4年生
- 米づくりや加陽の湿地調査をしてコウノトリも住みやすい環境について考えた5年生

そして、いよいよ6年生です。今度は皆さんが「中筋の未来」を考えます。地球環境を考え、心豊かな暮らしを「90歳ヒアリング」(P.14)から学ぶこともできます。「コミュニティなかすじ」(P.19)の取組から考えることもできます。今までの5年間の学びを活かすこともできます。

未来の担い手として、P.13～P.19について学習し「中筋の未来」を描きましょう。

20世紀末「住みよい中筋を創る会」が考えた21世紀の夢プランマップ

〈環境学習〉

〈コミュニティなかすじ〉

描こう 未来の中筋

〈自然破壊〉

〈90歳ヒアリング〉



「中筋の暮らし」



私たちの暮らす中筋は豊岡市の郊外、田園地帯にあります。豊岡盆地を流れる円山川と出石川の合流地点は、加陽湿地となっています。そこは、かつて人もコウノトリも牛も、生きものが共生する原風景がありました。



1960.8 市内出石川にて
(写真提供：富士光芸社)



【神鍋火山群】(日高)



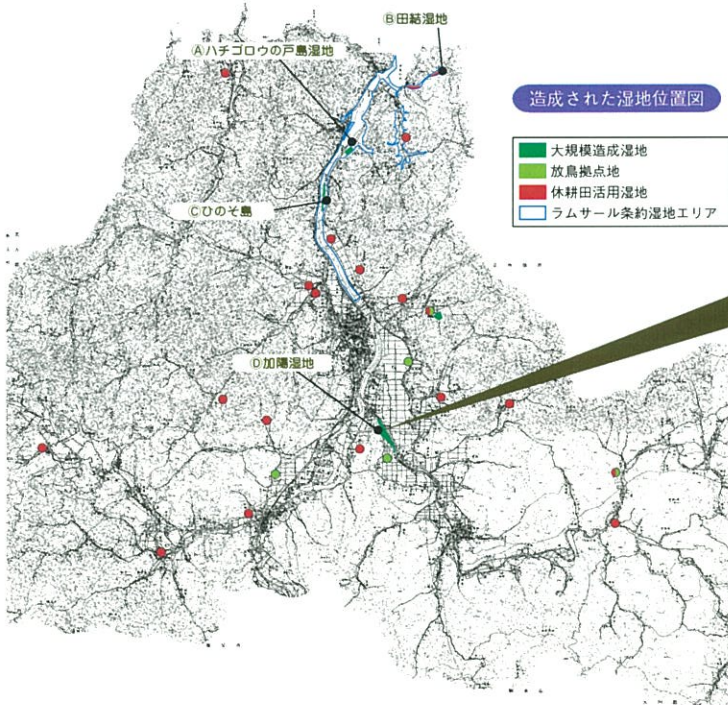
【豊岡盆地】(豊岡)



【玄武洞】(赤石)



【はさかり岩】(竹野)



◎加陽(かや)湿地 約15ha
国土交通省が河川区域内に整備する人工湿地

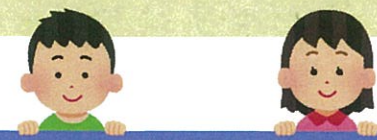
(写真：国土交通省)

円山川と出石川の合流点付近に位置する加陽地区で、国土交通省が、河川敷の農地を買収して行っている約15haの自然再生プロジェクトです。(H20～)閉鎖型と開放型の湿地を併設。家畜の放牧を行う牧草地も隣接させ、生きものと人が共生する象徴的な空間の創出を目指します。六方田んぼや出石地区に近く、コウノトリの重要な生息拠点としての機能が期待されています。

▲加陽湿地に飛来したコウノトリ

その豊岡盆地はジオパークエリアにあります。加陽湿地はラムサール条約湿地エリアにつながるコウノトリの重要な生息拠点となっています。このような環境と人々の暮らしについて考えていきましょう。

地球環境の今～どこまで悪化しているの？～



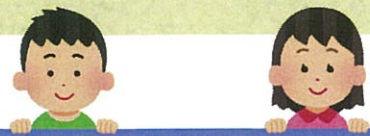
世界では、人口が増加し、都市化が進み、車、バイクが増え、大気が排気ガスで曇り、生態系のバランスが崩れ、建造物が増えて、エネルギーや資源の使用量が增大しています。これによって、エネルギー、資源、地球温暖化、水の分配、食料不足、生態系の劣化の問題がさらに悪化しています。既に、人間が安全に住める地球の状態を維持することが困難と言われています。今の暮らしを維持することができないのです。どうすれば良いのでしょうか。

どれだけ地球環境が悪化しているか、新聞や雑誌などで調べてみましょう。



(都会化が進むインドネシア)

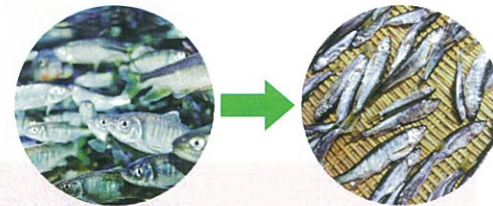




昔の暮らしに学ぶ「90歳ヒアリング」

～ 暮らし方の見直し ～

今の自分の暮らしを見つめ直してみましょう。エネルギーや資源を無駄に使っていませんか。食べものをムダに捨ててはいませんか。美しい自然から離れていませんか。昔は、エネルギーや資源をあまり使わずに、それでも楽しみがたくさんあったと言われていました。特に、今90歳前後のお年よりは、戦前の暮らしを体験した人々なので昔の暮らしをよく知っています。近い将来、エネルギーや資源を十分に使えない戦前のような状態になるかもしれません。身近な90歳に昔の暮らしを聞いてみましょう。

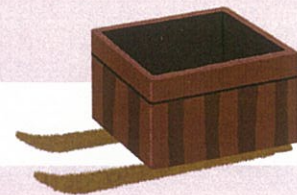


豊岡の昔の暮らしの例

“ハイジャコゆって、こんなジャコ。焼いて串に刺したやつを炙ってね、でそれを炙った後こう麦わらに刺しとく、それでぶら下げて軒にぶら下げたり、まあ天日に乾かしとった。それでパリパリになったらこう缶に入れてね、それで煮物するときはその出汁にしとった。”

“学校かってストーブがありましようが、昔やでね。そしたら当番でみんな家からまきを持って行くんです。そして木には火が付けへんですわ、マッチでは。それでその細かい木の枝みたいなのを添えてね。”

“自然との暮らしというのは本当に楽しいもんですよ。何でも与えられたものじゃなしに、自分で見出したり作り出したりする、そういう楽しみは今ないです。”



こんなことを聞いてみましょう

- 家（風呂、トイレ、台所、暑さ・寒さ対策）
- 家の中の仕事（料理、後片付け、掃除、洗濯、修理、手伝い）
- 燃料・資源（薪、井戸・水道、湧き水、川の水）
- 服装（普段着、行事、正月）
- 食事（朝昼晩の食、お膳、座り方、団らん）
- 近所とのかかわり（近所付き合い、助け合い、集い）
- 遊び（自然の中、家の中）
- 移動手段

～ 中筋の今と昔の違い ～

昔の暮らしは不便でしたが、エネルギーや資源をあまり使わず、はい気ガスもゴミも出さない、環境に良い暮らしでした。また、昔の人は、不便さを意識せずに、自然の力をうまく利用するさまざまな知恵がありました。食べること、遊ぶこと、仕事をする、暮らしのすべてが自然と深くかかわっていたのです。

内容	昔の暮らし	今の暮らし
電気・ガス・水道	ガスはなかった。お風呂をわかしたり、料理をする燃料には、たきぎを使った。	ガスが通っていて、お風呂はボタン1つで簡単にわかせたり、料理をするのにも苦労しない。
乗り物・移動方法	ほとんどが歩いたので、遠くまででは行かなかった。	自動車や自転車で移動しているので遠くまで楽に行ける。
食べ物	田んぼでとれた米に畑でとれた作物と、食事のほとんどを自分たちで作ったものでまかされた。おやつには自然になったグミや、つばな、イスランメなどを食べた。食べ物の残りは畑の肥料（ひりょう）にしたので、ごみは出なかった。	食事は店で買った食材で料理を作ったり、飲食店に食べに行ったりする。おやつは店で買った果物やおかしを食べる。ごみはごみ収集日にまとめて捨てる。
遊び	自分で作った道具で虫をとったり、雪山を作ってスキーで遊んだりした。	公園で遊んだり、家の中でゲームをしたりする。

お年よりは、今の暮らしも昔の暮らしも両方経験してきました。環境にやさしい、その地域の資源を活かす方法をたくさん知っています。今の暮らしでは経験できない楽しみもいっぱいあるようです。



～ 昔の知恵や工夫を今の暮らしに活かす ～

昔の暮らしは、エネルギーを使わなかったり、資源を大事にして、長く使ったり、布をいろいろな用途に使ったりしていました。そして、もちろん昔の暮らしに戻ることはできませんが、今の暮らしに活かせる知恵や工夫がたくさんありました。

なぜ、昔はそのような知恵や工夫がたくさんあったのでしょうか。これらの中には、昔の子どもたちが自ら考え出したものもあるのです。

昔の知恵を体験してみよう。

草笛
どのように工夫すれば音色を変えられるのかな。

虫取り
網を使わずにどうやってセミをとったんだろう。

竹とんぼ
高く飛ばすにはどのようにつくったらいいのかな。

すりやき
砂糖を使わずにどのようにおいしく食べていたのかな。

保存
冷蔵庫なしで、どのようにジャガイモを長持ちさせたのかな。

～ 心豊かなくらしとはどのようなもの ～

人にとっての心の豊かさは、それほど今も昔も変わらないのかもしれませんが。

自然に親しむ
ほたるをとってどんな風にして楽しんでいたのかな

おいしく食べる
山に入ってどんなおやつをおいしく食べていたのかな

自然を活かす
夏にどのようにして涼んでいたのかな
冬にどのようにして暖まっていたのかな

楽しむ
どこに魚がいたのかな
どのような方法で魚をとって楽しんでいたのかな

人とつながる
近所の人とどんな時に会っていたのかな

自然にいやされる
車が走っていない時はどんな音が屋外で聞こえていたのかな

快適に過ごす
どこに快適な場所があったのかな

成長する
遊び方やお手伝いの仕方などどのように覚えていったのかな

～ ワクワク・ドキドキする中筋の未来を考える ～

将来はますますエネルギー資源や食料が貴重になり、高齢者が増え、地域への移住者が増えてくるでしょう。このまま何もしないで誰かに助けてもらうのを待つのではなく、この状況の中でもワクワク・ドキドキする、そして、心豊かな未来の暮らしを、地域の人々で新しく生み出していく、それが中筋なのです。

エネルギーや資源が貴重になるからこそ、楽しめることってどんなことでしょうか。



コミュニティでエネルギーや資源をシェアするために集い楽しむ暮らし

食料が貴重になるからこそ、心が豊かになるくらしてどのような暮らしでしょうか。



自分でつくった安心な野菜を旬の時期においしく食べて新しく引っ越してきた人に分け合い仲良くなる暮らし

コミュニティなかすじの取組み

公民館・コミュニティなかすじ・地域の方が一緒になって、中筋の旬の会をしました。



「61種類の野菜クイズ」
秋に地元で採れる野菜を集めクイズをしました。



中筋産の農作物

さつまいも	キャベツ
じゃがいも	レタス
さといも	サニーレタス
小野いも	水菜
生薑	高菜
長芋	小松菜
にんにく	ほうれんそう
大根	きくらげ
ニンジン	しそ
ごぼう	みつば
らっきょう	みょうが
玉ねぎ	ブロッコリー
アカギ	カリフラワー
トマト	セロリ
なす	セリ
ピーマン	ズッキーニ
きゅうり	青ネギ
かぼちゃ	にら
へちま	オクラ
ちゅうたん	黒豆の移豆
ゴーヤ	黒豆
かぶら	小豆
白菜	ソラマメ



4回の旬の会に参加して、「地元の野菜をもっと食べたい」と意見がでました。そして、どうしたらいいか考えました。みなさんも考えてみましょう。

地元のおじちゃんたちは、中筋のみなさんに自分たちが作った自慢の安全安心でおいしい野菜を学校給食や家庭で毎日食べてもらえるように「雪を使った保冷库」を設置しました。この保冷库は電気を使わず、「雪」で冷やしています。「雪」も大切な資源ですね。

